

平成29年7月7日(金)、松江市立母衣小学校5年生79名に対して、第1回みーもスクールとして、「森林保全の大切さ」の講義と間伐材を使った「フクロウのキーホルダーづくり」の指導を行いました。3クラスが、2組に分かれて2種類のコースを交代で受講しました。



「森林保全の大切さ」の講義は、林業技士の野田真幹氏が、森の名手・名人であるシイタケ生産者響繁則氏の農林業を通して、たくさんの人が山村で炭焼きををして暮らしていた昭和40年ごろまでの、雑木林と人との関わりや萌芽更新のことなどを、クイズを交えながら物語的に話をしました。



その後、人工林の間伐の大切さの話では、間伐されていない森がどうなるか実際に体を使ってシミュレーションもしました。秋には、実際の森林へ出かけて行くのが楽しみになってくれたようでした。



もう一方の授業では、島根県森林インストラクターで大工の竹田正彦氏から指導を受け、間伐材でフクロウのキーホルダー作りをしました。全員が木のぬくもりのあるオリジナル作品を完成させました。



平成 29 年 10 月 24 日（火）、松江市母衣小学校 5 年生 79 名に対して、第 2 回みーもスクールを 2 クラスに分けて、午前・午後交代で実施しました。奥出雲町にて「シイタケ生産現場の見学・間伐体験」、ふるさと森林公園にて「ネイチャートレイルング体験・樹木学習」をしました。天気も良く、楽しく学習する事ができました。



森林公園で森に入る際の注意点を学習してから、ネイチャートレイルングというゲーム形式の樹木学習を公園内で行い、ゲーム後解説を聞きました。時間差で出発するため、空き時間を利用してドングリコマや、笛を作りました。



奥出雲町で、森の名手名人響繁則氏の原木シイタケ生産現場見学やナメコ茸生産について学び、里山の循環型農林業についても学びました。ロープを使った「間伐体験」をしました。



循環型農業で牛と田んぼのつながりについて学びました。干し椎茸の煮物を頂きました。

平成29年11月10日（金）松江市母衣小学校5年生79名に対して、第3回みーもスクールとして「ヒノキの和紙作り体験」指導を行いました。



和紙づくり工程の説明



タブの葉をちぎる



タブの葉をミキサーにかけ漉します



ねりを触って初めての感触に、大騒ぎでした。



ヒノキの甘皮の煮たものを叩く



やり方を聞き紙漉きに挑戦しました。



完成！！



まとめ

平成 28 年 10 月 24 日（火）、松江市母衣小学校 5 年生 79 名に対して、第 2 回みーもスクールを 2 クラスに分けて、午前・午後交代で実施しました。奥出雲町にて「シイタケ生産現場の見学・間伐体験」、ふるさと森林公園にて「ネイチャートレイリング体験・樹木学習」をしました。天気も良く、楽しく学習する事ができました。



森林公園で森に入る際の注意点を学習してから、ネイチャートレイリングというゲーム形式の樹木学習を公園内で行い、ゲーム後解説を聞きました。時間差で出発するため、空き時間を利用してドングリコマや、笛を作りました。



奥出雲町で、森の名手名人響繁則氏の原木シイタケ生産現場見学やナメコ茸生産について学び、里山の循環型農林業についても学びました。ロープを使った「間伐体験」をしました。



循環型農業で牛と田んぼのつながりについて学びました。干し椎茸の煮物を頂きました。